

らを利用しつつ、根に関する様々な分野の知見と到達点を整理し、根の研究に関する本を出版することを目指す。これを土台とし、将来個別的な、しかも実質的な共同研究がいくつか生まれることが期待される。

本会の設立理由の1つとして、根の研究者の国際的な緩い連合体である I S R R (International Society of Root Research, これまで3回国際シンポジウムを開催してきた) のシンポジウムを、将来日本へ誘致する際、受け皿となる組織が必要である、ということがあった。このシンポジウムの招致については、委員の中でも積極的な意見と消極的な意見とがある。いずれにしても、日本にも根の研究者からなる組織が活動していることを、海外に知らせていく必要があろう。

会員からの声

- 11月末までに事務局に届いた「プロフィール登録用紙」の書き込み意見欄からの抜粋です。
- ◇ 土壤中での根粒形成においても、根粒菌の分布状態や根の伸長に関する方向からの研究アプローチが必要と考えています。意見交換を希望します。
 - ◇ 会報を拝見いたしますと、もっぱら、根の土壤中における生理学が、会の主なテーマとなっているように思われます。是非、植物組織培養の分野も含めて下さい。
 - ◇ 昨年度までは、愛媛県で桑園土壌を対象にして研究しておりましたが、今は行政の仕事をしています。情報収集したいので入会させていただきます。
 - ◇ 1990年4月に役職につき、それ以降は直接研究に携わっていませんが、根には大変興味を持っています。
 - ◇ 年2、3回の割合で根に関する様々な立場から論議できる場を提供して欲しいと思います。
 - ◇ 研究会の会費は、年間10,000円は必要であると思います。そして、会誌・研究会活動を今後より一層に充実すべきと思います。研究会は東京に集中することなく、地方都市でも積極的に実施してもらいたいです。
 - ◇ 「根研究会」は語呂があまりよくないので「根系研究会 Root System Research」としたらよいと思いますが、ご検討下さい。

